

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」

2020 年度第 2 回研究会（通算第 4 回目）報告書

日時：2020 年 12 月 19 日（土）13:30–17:00

場所：オンライン

使用言語：日本語

主催：基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」

1. 白井聡子（AA 研共同研究員、AA 研フェロー）  
「ダバ語の語彙類型論的特徴」
2. 林範彦（AA 研共同研究員、神戸市外国語大学）  
「チノ語悠楽方言の語彙と意味カテゴリの対応における諸問題」
3. 全員  
「全体討論」

今回の研究会では以下の通り 2 名の共同研究員に報告いただいた。

白井聡子（AA 研共同研究員、AA 研フェロー）

「ダバ語の語彙類型論的特徴」

ダバ語はシナ＝チベット語族のチアン語群に属する言語である。チアン語群の系統的位置づけについて、近年、ロロ＝ビルマ系に近いとの仮説が出され、東南アジアの言語との関係が注目されている。ダバ語に特徴的な動詞形態法として、方向接辞、すなわち、移動の方向を表す一連の接頭辞がある。この存在が移動動詞の細分化に影響しており、方向接辞の選択によって「上る」「下る」「行く」「来る」などに相当する移動の方向が表されうる。一方で、移動動詞には発話者以外の移動に限られるものや、常に方向接辞なしで用いられる「来る」など、方向以外の側面で細分化が見られる。「貸す」「借りる」や「洗う」については方向接辞の選択によって意味が変わる現象が見られる。所有・存在を表す動詞は細分化が進んでおり、存在物の有情性、状態の一時性に加えて、存在の様態などによって 6 種類の存在動詞語幹が使い分けられる。このほか、兄弟姉妹を表す語彙、「古い」、「くさる」、主要な食物に関する語彙などに細分化が見られることを明らかにした。一方で、色彩語彙、イディオムなどは現時点ではあまり多く見つかっていない。

林範彦（AA 研共同研究員、神戸市外国語大学）

「チノ語悠楽方言の語彙と意味カテゴリの対応における諸問題」

本発表は中国雲南省景洪市で話されるチノ語悠楽方言[チベット・ビルマ語派ロロ・ビルマ語支]の語彙と意味カテゴリの対応に関わる諸問題について発表者の調査資料をもとに検討した。主として扱ったトピックは色彩語彙・評価語彙・存在動詞・移動動詞・飲食動詞・味覚語彙・所持関連動詞・洗淨関連動詞・発話関連動詞についてである。以下、いくつか言及する。

存在動詞は発表者の 2013 年の論文でも扱ったが、4 種類が認められ、有生性・一時性・包含性による区別がある。移動動詞は去辞・来辞ともに主として 3 種類の形式が認められる。その一部は動詞連続の第 2 動詞以降にのみ生起し、アスペクト的意味を持っている可能性がある。また「良い」を表す  $jo55$  はおそらく祖語の段階では「得る」を表す語彙で、意味変化が生じたと考えられる。味覚語彙の中の「辛い」 $a33phi55$  は刺激が強いことを表す現象（例えば、「喉がヒリヒリ痛い」など）にも転用される。

今回取り扱った形式の多くは固有語であるが、評価語彙の一部（「難しい」「易しい」）や洗淨動詞の中の「洗い落とす」意味を持つものはタイ・ルー語[タイ・カダイ諸語]からの借用語である。

（発表要旨は発表者による）